

みしま野

いばらきべついん ほんどう 茨木別院 本堂

阪急茨木市駅のホームに立ち、街を見渡せば、様々な建造物が並ぶ中に、一際大きな葺屋根が目に入る。以前はその威風堂々たる屋根だけが目に入っていたのであるが、建築ラッシュの波の谷間に少し遠慮気味にはあるがその姿を覗かせている。この葺屋根こそが茨木別院本堂である。本堂の大きさは正面15間(27m)奥行14間(25m)あるとされており、規模こそ小さいが京都にある西本願寺や東本願寺の御影堂にも決して引けを取らない造りである。境内には本堂の他、鐘楼や用途が不明な櫓風の楼閣、庫裏、伊東忠太設計の築地本願寺を彷彿とさせる屋根形状を持った会館、更には保育所の園舎が、所狭しと敷地内にひしめき合って建っている。

茨木別院の創建は慶長8年(1603年)、茨木城主片桐且元が東本願寺を建立した



茨木別院本堂



躍動感あふれる彫刻

所在地：茨木市別院町 3-31
最寄駅：阪急茨木市駅下車 西へ徒歩約2分
若しくは JR 茨木駅下車 東へ徒歩約10分
境内には入れるが本堂内部については寺務所へ問い合わせを。
TEL：072-622-2903

教如上人に城内の地を寄進して建立させたのが始まりで、現存する本堂は安永6年(1777年)に創建されたと伝えられている。この本堂は大阪教区内にあっては唯一往時を今に伝える遺構として貴重な存在であり、かつては茨木御堂・茨木御坊・茨木掛所と呼ばれていた。現在でも茨木別院は近隣の住人から「御坊さん」として親しまれており、信仰の場として参詣する人が絶えない。

本堂は木造平屋建て、本瓦葺きの入母屋造り。懸魚や木鼻、入母屋妻面の壁面等、要所に取り付いた彫刻は精巧で緻密に造られている。彫刻は元々素木の俣で日光東照宮の様に彩色されていない。木目は年月の経過と共に多少は浮き上がりを見せ、その風合いはより深みを増しており、彫刻は見る者に「静けさの中にある躍動感」を印象付けてくれる。(神保 勲)